



湿地の統合管理を訴え

国連大学 二十二日の「世界水の日」に合わせ、南米のパンタナル湿地が誇る世界有数の生物多様性が、開発事業や気候変動により失われるとの警告を全世界に発信した。学長兼国連事務次長のハンス・ファン・ヒンケル教授は「統合的な管理がなされなければ、人間の侵害によって永久に変質する」と話している。

同湿地は一六・五平方kmある世界最大の淡水湿地。鳥類六五〇種以上、チヨウ類二〇〇種以上などが生息し、絶滅の恐れのある固有種も多い。